

# 道徳・特別活動研究委員会

## 1 研究テーマ

子どもの心を揺さぶり、より豊かな道徳的価値に気づかせる道徳の授業はどうあったらよいか

## 2 研究内容

研究授業実施 平成20年11月19日(水) 高山村立高山小学校 1年1組

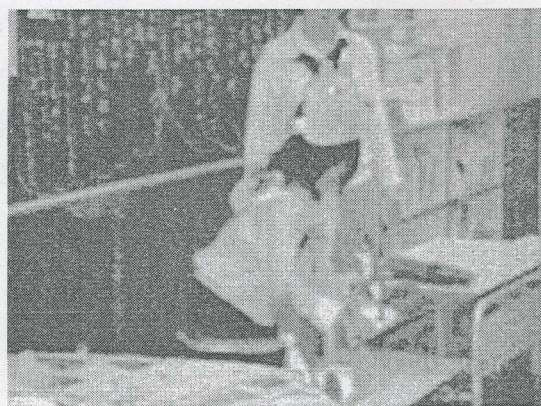
授業者 長田みゆき教諭 「はしのうえのおおかみ」 2-(2)

- ・資料選定のあり方・・・今回は2-(2)を中心的な価値に設定したが、それを扱った資料はたくさんある。児童・生徒の実態や授業者の願いに沿って、どの資料を選定したらよいかの検討を行った。また、同じ資料や授業案をもとに、推進委員の学級で実践を試みることもできた。
- ・中心発問について・・・主人公の「心情」について聞くのか、「行為」について聞くのかなどによって、主眼も発問も変わってくることを知り、具体的な事例を通して確認し合うことができた。
- ・再現構成法や役割演技などの手だてについて・・・価値やねらいに迫る手だてとして「役割演技」などを取り入れることが多くなっているが、その注意すべき点や効果的な方法について確認し合うことができた。

## 3 研究の成果

### (1) 指導の実際

世話係の高山小学校校長の山岸建文先生を助言者としてお願いしたことで、郡研当日だけではなく、事前の研究推進委員会から継続的にご指導をしていただくことができた。特に、道徳の授業における資料選定のあり方について、新たな視点をご指導いただくことができた。例えば、今回授業で扱った「はしのうえのおおかみ」であるが、同名の資料が各出版社の副読本に掲載されていたが、終末の扱い方が、各出版社によって



違いがあることを知ることができた。願う価値項目が同じであっても、「心情」について考え合うことに中心がおかれているのか、「行為」について考え合うことに中心がおかれているかなどの違いがあった。従って、授業者がどんな願いをもって授業を仕組むのかということによって、どの資料を扱うか、中心発問が「心情」に寄せたものか、「行為」に寄せたものなのか、などが変わってくることを学ぶことができた。

また、今回の授業の役割演技の際の「おおかみの手袋」をつけるかつけないか、を児童に問うような手だても大変有効であった。児童・生徒に直接的に問いかけるのではなく、具体物を通して間接的に問いかける手だてが大変参観者にも参考になったと感じている。発問においても同様なことが考えられる。児童・生徒の考えや気持ちを問うためには直接的な発問ばかりではなく、主人公の行為や心情について聞くことで、推し量ることができる。年齢や学年が上がるにつれて、なかなか自分のこと

を語らなくなってくる児童・生徒が多いからこそ、道徳の授業を通して目の前の子どもたちがどんなことを感じ、どんなことを考えているかを知ること、道徳の授業を子どもとともに創っていく楽しさにつながっていくのである。

指導案の形式を含め、普段の授業を考え合い、お互いに見合うことで、研修を深めていくことができた。

(2) この事例から明らかになったこと

- ・指導案に「資料の構造とねらい」を位置づけてもらった。普段の生活において子どもがやっている行為の良さを、道徳の授業を通して改めて位置づけることの意味。やっている良さに気づけていない子どもが意外に多いことを、教師は改めて自覚する必要がある。
- ・「役割演技」を行う場合には、子どもが「やってよかったな」と思えるものでなくてはならない。今回は、「おおかみの心情」の変化に絞って考えた。役割演技の際も、いじわるをするおおかみについても行うことが検討されたが、「いじわる」をしたり「悪いことをする」ことを進んでやることが子どもはいない。役割演技をすることによって、いやな気持ちをもつようなものはすべきではないと山岸校長先生から事前に指導を受けていたが、その通りであった。
- ・「おおかみの手袋」のような非言語的な役割演技の意味の大きさを感じさせられた。わざと爪を大きくして作ってあった「おおかみの手袋」を子どもが使うか使わないか、また、たぬきやきつねを先生からどう受け取り、どうやって橋を渡しておくかなどによって、ことばではないその子の気持ちを知ることができる。
- ・友の発言から学ぶことが多いのも道徳の授業の楽しさである。その意味で、黙っている時間を大切にしたい。黙っている間にも子どもは一生懸命に考えている。また、子どもはいくらでも授業中につぶやいてくれる。それを取り上げたり、問い返したりすることで、教師も含めて子ども同士での学びあいの場となるはずである。



#### 4 来年度への課題

- ・児童・生徒の内面を引き出していくための発問の工夫については、引き続き研究を深めていきたい。
- ・今年度から「道徳」と「特別活動」が統合された研究委員会になった。年度当初から今年度は「道徳」に絞って研究や研修を進めてきたが、「特別活動」については、結果的に全く研修等を深めることなく終わってしまった。今年度のように、その年によって「道徳」か「特別活動」かに絞っていくか、それとも両方に触れながら1年の研究や研修を深めていくかなどを確認しておきたい。
- ・昨年に引き続き、児童・生徒のつぶやきや発言を問い返すことが、大切であり、時には重要な手だてとなることが明らかになった。効果的な「問い返し」についての研究も深めていきたい。